

2018 年度

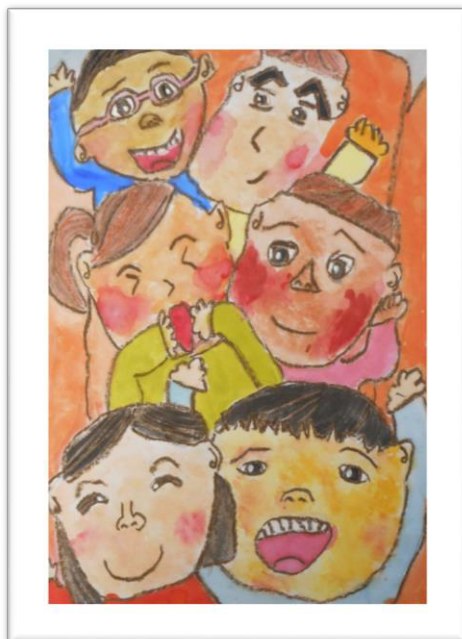
# 人権作品集

言ってみよう

あかんはあかん

はつきりと

「人権」に関する標語選定作品 小学五年生



「人権」に関する図画選定作品

小学2年生



「人権」に関するポスター選定作品

中学3年生

なくしたい

言ってるだけじゃ

消えない差別

「人権」に関する標語選定作品 中学三年生

## はじめに

名張市・名張市教育委員会では、日常の家庭生活や学校生活、社会生活などでの体験を通して実感された、人権を守ることの大切さや偏見・差別などの社会の不合理をなくしていくことへの思いを表現した人権作品を、市民のみなさまから募集しています。

本年度も、小学生・中学生・高校生・高等専門学校生をはじめ市民のみなさまから、作文・標語・図画・ポスターを合わせて一万二千九百二十八作品もの応募をいただきました。たいへん多くの方々が、人権作品に取り組んでいただいていることに対し、感謝を申し上げます。

提出していただいた作品の中には、家庭や学校・社会生活で自ら体験したことや感じたこと、そして学習で学んだことを通して、人権尊重の大切さや、差別をなくしていくための意見、感想が述べられているものや、自分自身を振り返り、差別をなくしていくとする姿勢や意欲が伝わってくるものが数多く見られました。

この作品集は、応募いただいた作品の中から、作文十作品、標語十六作品、図画・ポスター二十作品を選定し、掲載しています。本誌を、人権について考えるきっかけとするとともに、さまざまな学習の場でご活用いただければ幸いです。

なお、これらの作品の中から、図画・ポスターの一作品、標語の一作品を人権啓発用ティッシュ、図画・ポスター八作品と標語の七作品を来年の人権カレンダーのデザインとして活用させていただきました。ありがとうございました。

# 目次

## 作文

### 【小学生の部】

○友だちのこと	二年生	4
○なかなおり	二年生	5
○「思いやりのある心」	四年生	6
○ゆう気を出して「友だちになろう。」	四年生	7
○「伝えたい」	六年生	8
○思いを言葉に変えて	六年生	9
○わたしからやめる・止める	六年生	10
○地域での活動	六年生	11

学年  
ページ

【甲学生の部】

○障がい者への理解について

一年生 . . . 12

○命の大切さ

三年生 . . . 14

標語

【小学生の部】

. . . 16

【甲学生の部】

. . . 17

【高校生・高等専門学校生・一般の部】

図画・ポスター

【小学生の部】

. . . 18

【甲学生の部】

. . . 22

## 友だちのこと

(小学二年生)

わたしは、一年生のときから友だちのことでがんばっていることがあります。

友だちとたくさんおしゃべりすることです。友だちとたくさんおしゃべりできるようになるために、

「名ふだつけるのわすれてるよ。」

「いっしょにしよう。」

とか、わたしが気がついたことがあれば、友だちに話しかけています。それで、友だちといっぱいおしゃべりができるようになってきました。

あと、絵をかいていたり、本を読んでいたりとする友だちがいたら、話しかけることです。いつも絵をかいたり、本を読んでいたりするのほちよつときみしそうに見えるからです。

きのう、お昼休みにAちゃんとあそびました。Aちゃんは、クラスで一人のがいこくの友だちです。前からAちゃんと、もつとおしゃべりしたいなと思っていたので、あそぶのがたのしみでした。Aちゃんは日本語よりポルトガル語の方がじょうずです。自分の言うことがつたわるか、Aちゃんが言うことが分かるかしんぱいでした。でも、その日はAちゃんが一人でいてすこしきみしそうに見えたから、ゆう気をだしてじ分から話しかけてみました。Aちゃんはうれしそうだったから、こころがほつとしました。

Aちゃんとおしゃべりすると、

「Aのペットの色はちゃ色。」

「Aのいとこは、犬がきたらキヤーって言った。」

とか、Aちゃんのペットのことや、いとこのことを言っていました。Aちゃんはわらいながらうれしそうにわたしに話しかけてくれました。

わたしも、Aちゃんに、

「わたしのペットもちゃ色だよ。」

「わたしのおとうとは、モカのことをちよつとこわがるよ。」と話をしました。

いままでは、しんぱいでなかなかじ分から話せませんでした。

Aちゃんがうれしそうに話してくれて、AちゃんのことやAちゃんのいとこのこともよくわかりました。Aちゃんがペットをかつていることもわかりました。わたしのことも聞いてもらって、わたしのこともわかってもらえました。わたしはAちゃんに話しかけてよかつたと思いました。

Aちゃんとおしゃべりして、友だちのことでしらなかったことがたくさんわかりました。わたしのことも話ができました。おしゃべりをする友だちとどんだんなかよしになります。これから、Aちゃんやほかの友だちとたくさんおしゃべりをして、いろんな友だちともつともつとなかよくなりたいたいです。

## なかなおり

(小学二年生)

わたしは、一年生の時にやさしくて大すきな友だちとけんかを  
してしまったことがあります。

休み時間にAちゃんが「いっしょにシーソーであそぼう。」とき  
そつてくれました。だけど、わたしはちがうあそびがしたかつた  
ので、「シーソーはいや。ほかのことしよう。」と言いました。そし  
たらAちゃんに「もうこれからは〇〇ちゃんとおそびたくない。」  
と言われました。わたしは、「じゃあ、もうあそびなくていいから  
あつち行って。」ときつう言つてしまいました。そして、Aちゃん  
はないてしまいました。そのまま時間がたつと、わたしはなんだ  
かモヤモヤして、だんだんかなしい気もちになつたり、むしやく  
しゃしたりしました。さつきのことを思い出すと、いつもいっし  
よにあそんでいる自分の大切な友だちにいやなことを言つてしま  
つた。Aちゃんのこころをきずつけてしまったなと思ひました。

Aちゃんに「あそびない。」と言われたことはかなしかつたけれど、  
わたしもひどいことを言つてしまつたし、自分のかない気もち  
がいやで、思ひきつてわたしの方から「Aちゃん、ひどいこと言  
つてごめんね。」と言ひました。するとAちゃんもわたしに「ごめ  
んね。」とあやまつてくれました。これでまたAちゃんとあそべる  
と思つて、なんだかこころがほつとしました。自分からあやまつ  
たら、こころがすつきりして、うれしい気もちになりました。そし  
て、Aちゃんもわたしもニッコリえ顔になれました。やつぱり、わ  
たしは友だちとおそんでいる時が一ばんすきです。今では、Aち

やんとは前よりもつともつとなかよくなつた気がします。さい  
きんは、いっしょにうたをうたつたり、おどつたりして、一ばんな  
かよしの友だちです。

わたしは、いつもみんなとなかよくしてわらつていたひです。  
でも、ときどき、けんかをしてしまいます。自分から「ごめんね。」  
と言ひことは、とつてもゆう気がいることだと思ひます。でも、ゆ  
う気を出せば、わたしも友だちもえ顔になれます。あやまらない  
と、自分もまわりの友だちもみんなかなしい気もちになつてしま  
います。みんながいつもえ顔ですごせるように、わたしはいつも  
自分の気もちにすなおでいたひです。わたしがすなおな気もちで  
いたら、まわりのみんなもすなおになつてくれると思ひます。

今、わたしは、とつても学校がすきです。毎日、学校に行くのが  
たのしみです。はやく友だちに会つて、いろんなたのしいはなし  
をしたいひです。

## 「思いやりのある心」

(小学四年生)

わたしは、思いやりの心をもって周りの人にやさしくすること  
はとても大切だと思っています。わたしがそんな風に思うようにな  
ったのには、きっかけがあります。

夏休みに、愛知県のおばあちゃんの家で弟とお姉ちゃんといっ  
しょに行きました。帰りはおばあちゃんもいっしょに電車に乗っ  
て帰りました。電車の乗りかえの時に、おばあちゃんが重そうに  
荷物を持っていたら、男の人が、

「持ちますよ。」

と声をかけてくれました。その人はおばあちゃんが持っていた荷  
物を持って、わたしたちが乗る電車の近くまで来てくれました。

おばあちゃんは、

「ありがとう。」

と言いました。その人は、お礼を言われてうれしそうでした。その  
時、わたしは初めて、おばあちゃんがわたしや弟の荷物を持って  
くれていることに気づきました。おばあちゃん、重い荷物を持た  
せてごめんねと思ったり、おばあちゃんもわたしたちに思いやり  
の心をもってやさしくしてくれていたんだなと思いました。わた  
しも、「ありがとう」と言われると心がぽかぽかしてくるし、家族  
やんせきに言われると、もつとうれいので、周りの人にもつ  
とやさしくしたいなと思いました。

その後、わたしが男の人のように荷物を持ちました。そうした  
ら、弟も、

「ぼくも持ちたい。」

と言ってきたので、少し取り合いになりました。おばあちゃんは  
それを見てニコニコしていて、わたしもうれしくなりました。わ  
たしにそんな思いやりの心くれたのは、あの男の人だと思いま  
した。

それから夏休みの間に、生まれたばかりの弟のめんどろを見る  
ことにお母さんがいそがしい時は、お手伝いをするようにしまし  
た。お母さんにも「ありがとう」と言われて、やっぱりうれしかっ  
たです。

夏休みが終わって、学校が始まりました。わたしは、三年生の時  
に転校してきて、なかなか最初は仲の良い友達ができなかったけ  
れど、今は仲良くしている友達がいます。わたしはあまり自分か  
ら人に話しかけられないけど、クラスの子たちが話しかけてくれ  
るようになってだんだん仲良くなりました。わたしは、これも思  
いやりかなと思いました。今でも自分から話しかけることは苦手  
だけど、友達がしてくれたように、わたしも勇気を出して話しか  
けて、もつと仲良くなりたいし、新しい友達もつくりたいです。

これからも、周りの人に思いやりの心をもって接したいです。  
思いやりの心は、相手も自分もあたたかい気持ちにできるし、家  
族や友達とのつながりもつくれるからです。

ゆう気を出して「友だちになろう。」

(小学四年生)

わたしは、一年生に入る前まで、大阪に住んでいました。それから、大阪から三重に引っこしてきました。なので、小学校に入った時は、友だちが一人もいなくて、学校に行くのがこわくて、よく泣いていました。しかし、そんなときに、Aさんがかけよってくれて声をかけてくれて、とてもうれしかったです。次の日になって、わたしは、ゆう気を出して、

「Aちゃん、友だちになろう。」

と、言いました。すると、Aさんは、

「いいよ。」

と、言ってくれました。わたしは、とてもうれしくなって、それから、たくさんの人に、言ってみました。すると、みんなが、

「いいよ。」

と、言ってくれました。そのことを家に帰ってお母さんに伝えると、

「そうなん、すごいやん。」

と、うれしそうに言ってくれました。あまりにうれしかったので、家族みんなにも言いました。すると、みんなも、とてもうれしそうにしてくれていました。何日かたったら、学校に行くことが楽しくなって、泣かずに行くことができるようになりました。夏休みになると、することがなくて、「早く学校に行きたいな。」と、思っていたくらい、学校が楽しくなりました。おもしろい先生や優しい先生やきびしい先生がいて、次はどんな先生かを考えることが

楽しみです。また、次はだれといっしょのクラスになるか、今度はBさんといっしょがいいなど、物事を前向きに考えられるようになり、今では学校が大好きになりました。

これからは、今よりもいっばい友だちを作って、いっばい遊んだり、雨の日でも家の中で遊んだりしたいと思っています。また、友だちとけんかもすることもあるけど、ぜったいにいやなことを言わないようにしたいです。



## 「伝えたい」

(小学六年生)

私は小学校六年間で様々な人権について勉強をして、たくさんの人にお話を聞き、学んできました。

六年生になって、合田正志さんが学校に来てくれました。人とのつながりや、差別の問題について話してくれました。「その一言で人と人を切っていく」、でも、「その一言がうれしい」ということを合田さんの小学校の時の経験を話しながら、教えてくれました。たった「一言」だけど、その中身はとても大事だと思います。他にも「自分に指を向けて考えてほしい」ということも聞きました。

私も自分の一言で友だちを傷つけて、けんかになってしまったことがあります。けんかになって、自分はともしんどかったです。でも、相手にとつてもしんどい一言を言ってしまいました。自分に指を向けて考えると、自分が言った一言の重みを今は感じる事ができます。今は、相手の気持ちを考えることができるようになってきたと思っています。

反対に、今までで一番苦しかった一言を言われた経験もあります。それは、他の県から転校してきた時のことです。新しい友だちと話している時に、前に住んでいた地域の方言を使っていると、それだけでいやな言葉をたくさん言われました。その時、私は何も言い返すことができませんでした。方言がちがうことは仕方がないことなのに、あの時「別にいいやん。」と言えなかったのは、自分は悪くない、とはつきり自信をもてなかったからかもしれない。

せん。後になって、別の友だちが、「方言について」というテーマで自由研究をしていました。そのなかで、方言は昔からその地域に伝わる大切なふるさとの言葉だと教えてくれました。それを聞いて、私はあの時のことを思い出し、人と何かがちがうからといって、人を傷つける言葉でいじめることはやっぱりおかしいと改めて思いました。

五年生の時に来てくれた藤本佐利さんは、「仔牛のローカウジー」という歌を歌ってくれました。ローカウジーが自分だけ角があることを気にして、自分の角を折ってしまうという歌です。人たちがうことを気にしたり、そのことで悩んだりするのではなく、「あのままの自分でいいよ」ということを伝えてくれました。また、助産師の富森典子さんからは、命の大切さについて教えてもらいました。「生きているだけで百点満点！」という優しく、うれしくなる言葉を私たち一人ひとりへの手紙に書いてくれました。

どれも、私にとつて大切な「一言」です。

私は最近、「自分が学んできたことを誰かに伝えたい」と思うようになりました。誰かに伝えていかないと、教えてもらった大切な思いや願いがなくなっていくかと思うからです。将来、私は小学校の先生になって、大切なことを子どもたちに伝えていきたいです。私の「一言」で大切な思いが伝わるといいなあと思っています。

## 思いを言葉に変えて

(小学六年生)

私は、今まで差別や人権のことについていろいろなことを学んできました。六年生では、名張市役所の田中先生に来ていただいたとお話を聞きました。田中先生のお話の中で一番心に残ったのは、生まれた場所や肌の色、誕生日、体格など、努力ではどうしようもないことがあるということでした。どうしようもないことを気にしなくてもいいし、そのことでほかの人をからかってはいけな思いました。また、けいかん旗のとげの意味も教えてもらい、「自分とはげのようなチクチクした言葉や態度をしていないか」「言いたいことがちゃんと言えているか」と自分を見つめることが大事だと教えてもらいました。

そんな学習をした後、ある出来事を思い出しました。四年生の時のことです。私は身長が低く、よくA君にからかわれていました。それまではそんなに気にしていなかったのに、ある日、A君のこの一言でカッとしてしまったのです。

「だまれ、チビ。」  
いつもは気にならないのに、なぜかこの日は許せなかったのです。「前から思ってたけど、私がチビやったら君はデカやし、チビばっかりうるさい。」  
と言ってしまった。

それを見ていたBちゃんから、  
「Cちゃんは小さいことを気にしていないかもしれへんけど、A君は大きいことを気にしているよ。」

と言われ、私もA君と同じことをしていたことにやっと気づきました。

それからA君と話すことはありませんでした。でも、A君に「ごめん」と言いたい、「もうこんなことを言い合う友だちはやめよう」と伝えたい、とずっと考えていました。「ごめんね」って心の中でつぶやいてもさけんでも、相手には届きません。本当に当たりの思いを言葉に変えて相手に伝えることは難しいと思いました。

それから二日後、私はA君に、  
「この前はごめん。もうチビとかデカとか言うのはやめようよ。言っても楽しくないし、もうやめよう。」  
と、本音を話しました。するとA君は、

「こつちこそごめん。本当は小さいのがうらやましかっただけ。」  
と言いました。私はこの時、思いを言葉に変えることが仲間になるための一歩なんだと改めて感じました。

私は、この出来事から、けんかをして自分も思っていることを言葉にして相手に伝えるようにしています。なんでも言い合える、言葉にできる仲間もできました。

私はBちゃんからアドバイスをもらい、大切なことに気付くことができました。私も悩んでいる子がいたら、そつと手を伸ばせる人になりたいし、これからも思いを言葉に変えて相手に伝えていきたいと思えます。

## わたしからやめる・止める

(小学六年生)

わたしは、三年生の二学期に転校してきました。前の学校で二年生の時、クラスにAさんという女の子がいました。Aさんは、猫を二匹飼っていて、猫のにおいがしていました。そのためAさんに、「うわっ、お前くっせ。」という男子や、Aさんの使っている物やAさんが触ったところにあたると、「A菌に触っちゃったー。」と言って、他の男子にそのあたったところをつけたりしている子がいました。女子もさけたり悪口を言ったりしていました。わたしは、Aさんとよく遊んでいたけど、「そういうのやめよ。」や「友だちやからそうゆう事するのやめて。」と言えませんでした。もしかしたら、次は自分にされるかもしれないと思って、怖くて止められなかったのです。でも、二学期になって、Bさんと仲よくなったわたしは、BさんとAさんの三人で遊ぶようになりました。徐々に他の子もわたしやAさんと遊ぶ子が増えてきて、Aさんのことを菌扱いしたり、Aさんのことを「くさい」と言ったりする子は自然と減っていききました。三年生になって、クラス替えもありAさんとは違うクラスになりました。わたしは、家の事情で引越しましたが、BさんとのメールのやりとりでAさんのことを聞くと、Aさんは最近一人でいるそうです。

学校の人権学習で、「差別は自分と無関係なの？無関係な人はいないんだよ。あなたの立ち位置はどこですか。」というお話を聞きました。その話を聞きながら、Aさんのことを思い出していました。

た。あのときのわたしは、気にはなっていない、「差別やいじめはいけない」と言えず、「見て見ぬ振りをしている」立ち位置だったなと思いました。

わたしは、もし一人でいる子がいれば、これからは声をかけようと思いました。今はAさんのことをどうすることもできませんが、今いる学校でわたしから声をかけることで、ひとりぼっちの子が減ればいいなと思いました。

けれど、今の学校でも四年生になったとき、友だちを無視してしまったことがあります。「無視しよう」と言われて、わたしは、「無視はいじめと一緒だよ。」「無視はやめようよ」を言うことができませんでした。「無視しよう。」といわれて、「ウン。いいよ。」と言ってしまいました。わたしはみんなといっしょになつて、Cさんをいじめてしまったのです。他の友だちと遊んでいても楽しくありませんでした。やっぱりわたしは、無視をしてはいけないと思って、思い切って一緒に無視をした友だちに「やっぱり無視はやめよう。無視はいじめと一緒だと思うから。」と言いました。すると、二人ともそう思ったらしく、「うん。無視はやめよう。」と賛成してくれました。Cさんへの無視は二、三日で終わり、わたしたちはその後もCさんとしやべったり休み時間を一緒に過ごしたりすることができました。

わたしは、「無視、いじめは、わたしから止められるんだ。」と思いました。差別を受けた友だちは、とてもつらかったと思います。差別やいじめは絶対にいけないことです。わたしは、友だちをつらい目にあわせて泣かせてしまったとき、いじわるした自分も心が重たくなるということがわかりました。だから、友だちがいじめられていたら「やめて。」と言えるようになりたいです。

## 地域での活動

(小学六年生)

わたしの住んでいる地域の一年生から六年生の子どもは、夏休み  
みに地域のお寺に行つて、お経を読んだり、草引きをしたり、ご飯  
をもらったりします。朝、七時から二時間くらい一週間行きます。  
その中で、警察や地域の人に来てくれてお話をしてくれます。今  
まで学校のぶどう学習でお世話になった山口さんや多くの人が話  
を聞かせてくれました。

今年はその話の中で、「黒人差別」のことを聞きました。それ  
までも学校で人種差別のことは、勉強して知っていました。でも、  
他の人から聞いたのは初めてでした。黒人の人は、お店に入れな  
いというきまりがあったり、どれいとして扱われていたりしたこ  
とを話してくれました。

店の中に入れてくれないのはひどいです。肌の色だけで決めつ  
けているのです。人は人なのに、どれいとか人が人を道具のよう  
に扱われてもつとひどいです。外国では、今もまだ「黒人差別」が  
残っていると聞いて、驚きました。

この前、大坂なおみ選手が、全米オープンで、元世界チャンピオ  
ンの人に勝つて、優勝した時「すごいな」と思いました。でも、「日  
本人と違うの?」と思つてしまいました。大坂選手のお母さんは  
日本人で、大阪で生まれて三才まで大阪で暮らしていたと知りま  
した。肌の色で、知らないうちに疑問に感じてしまつていた自分  
がいました。普段は、日本人だとか日本人じゃないとか考えたこ  
とはありません。でも、自分の中にも、決めつけのもとがあること

に気がつきました。

二期期になって、運動会の組み立て体操で、「This is  
Me」これが、わたしをしました。その時、「グレイテスト・  
シヨーマン」のDVDを観ました。その中で、差別とつながった言  
葉が二つありました。一つは、「私が出て行つたらいやがる」とい  
う言葉です。主人公が、さまざまな特徴のある人をサーカスに誘  
ったとき、返ってきた言葉です。差別のために隠れて生きなくて  
はいけない人がいることを知りました。二つ目は、「この町から出  
ていけ」という言葉です。隠れて生きてきた人たちがやつと勇氣  
を出して、シヨールを成功させたとき、町の人たちが、こう言つて建  
物を燃やしてしまいました。「なんでなん?」と思いました。他に  
も気になったことがいくつもありました。

わたしは、まだ近くに黒人の知り合いもないし、外国の人の  
知り合いもいません。これからいろいろな人に出会つたとき、差  
別する側ではなく、仲良くなれる人になりたいと思います。

地域の活動に参加して、よかつたと思います。

## 障がい者への理解について

(中学一年生)

僕には中学三年生で十四才になる兄がいます。兄には発達障がいと知的障がいがあり、中学校進学を機に特別支援学校に通うようになりました。やってはいけない事をしてしまったり、他の人に嫌な事を言ったり、イライラしていたりするし、みんなと同じような勉強をするのが難しかったりするからです。年齢は十四と書きましたが、実際の精神年齢は、小学校三年生から四年生ぐらいだろうと言われていきます。兄は発達障がいの影響で、他の人が少し迷惑だなと思うことをしてしまう癖もあります。自分が好きな物事をしつこく押しつけてしまったり、知らない人にも話しかけて長話をしてしまうのです。また、人が言われたら不快に思うだろうという事も何も考えずに言ってしまうのです。僕も家では、一日に何度も同じ話を聞かされたり、同じ質問をされたりして、本当にうんざりしてしまいます。そして、空返事や素っ気ない態度をとってしまう事も日常茶飯事です。

僕の兄の事で今までも大変な思いばかりしてきました。兄はよく僕の同級生にも話を聞かせますが、長話をしたり押しつけたりしているようで、僕にクレームがたくさん来ます。でも、僕に言われてもどうする事もできません。家族との話し合いで、子どものいる時間には外へ行ってはいけないと約束しても、すぐに約束を無視して出かけて行くのです。そしてまた僕にクレームが来ます。

六年生になって僕は年下の五年生の子に突然「お前のお兄ちゃ

ん「ガイジ」やから、お前も「ガイジ」やな。」と言われた事がありました。学校では「ガイジ」という言葉が使われていたこともあります。僕自身も「ガイジ」と言われた事があります。「ガイジ」という言葉を使う人にとっては、あまり深い意味で言っていないのかもしれない。しかし障がいのある家族のいる僕にとってはあまり気持ちの良い言葉ではありません。同じく障がいのある家族のいる友達も「ガイジ」という言葉に深く傷ついていました。障がいのある家族を持つ僕は、兄のちよつとした困ったところも知っています。優しいところや他にもいろいろ良いところも知っているのです。兄は、僕が苦手な家電の修理や自転車のメンテナンスをしてくれたりします。困った事があるとすぐに心配や手助けもしてくれます。そんないいところもあるのに、簡単な気持ちや、おもしろ半分でバカにしたり、「ガイジ」などの言葉で悲しませるのが許せません。他の障がいのある家族がいる人もきつと同じ気持ちではないかと思えます。

そんな兄ですが、今年の四月に問題行動がエスカレートし抑制する事ができず、遠くの病院へ急に入院する事になりました。入院前は暴れたり、してはいけない事をくり返し大変だったので、兄が入院して少しほっとしました。しかし兄が入院して約四か月になります。今まで騒がしかった毎日が嘘のように静かになりました。時々友達に兄がどうしているのか聞かれる事があります。クレームは収まりました。入院が長くなり、兄がいない時間が長くなるにつれ、兄の良いところを思い出す事が増えました。兄は不快に思う事も言ってくるし、面倒な事件もたくさん起こしますが、兄がいないと不便な事もたくさんあるし、寂しいと感じることもあります。兄はたくさん話を聞かせてくれるので、家の中

が自然にとても賑やかになります。体調の悪い時は、心配もしてくれません。時々ごはんを作ってくれるし、不器用に踊ったりして家族を笑わせてくれます。僕はそんな兄がいるからできた事もあったと思いました。

障がいのある兄のことを知らない人には、兄は滑けいな事をしすぎてあまりに迷惑な人に見えるかもしれないかもしれません。ですが、僕に元気をくれる兄の事を詳しく知れば、少し考え方が変わると思います。また障がいの家族を持つ人の事を知れば、その大変さが解り、安易にからかったり、バカにしたり、「ガイジ」という言葉を使う人が減るのではないかと思います。バカにしたりする人は、障がい者の事やその家族の事をあまり知らないのだと思います。障がいがあるかないかにかかわらず、人の悪口を言ったり、バカにしたりするのは、その人の事をよく知らないからなのではないかと思うのです。兄だけでなく、皆悪いところがあり、良いところもあります。楽しそうだと思っても、苦労している事もあります。その人の悪いところだけではなく、良いところも見つけてほしいです。

僕は、障がいのある兄を持つ事を隠しません。皆に兄の事を知ってもらえたら良いなと思います。そして僕の兄の事を知る事によつて、障がい者とその家族への理解が深まれば良いなと思っています。さらに「ガイジ」という言葉の重みにも気づいてもらえたら嬉しいです。

僕はこの人権作文を通して、たくさんの方が障がい者への理解を深め、接していつでも構って願っています。

## 命の大切さ

(中学三年生)

ぼくは最近、テレビやラインニュースなどで児童虐待で亡くなられた子ども達の話をよくみかけます。なぜこのような事件ばかりが年々増えていくのだろうかと考えました。

ぼくは、お父さんやお母さん、おじいちゃん、おばあちゃんに愛されながら育ちました。時々怒られたり、お兄ちゃんと激しいケンカをしたりしますが、いつも伸び伸びと自由に過ごし、食べたい時に食べ、遊びたい時に遊び、眠い時に寝て、すくすくと成長できていると思います。もし、このぼくが環境がお父さんやお母さんに暴力をふるわれたり、ご飯を食べさせてもらえなかったり、無理やり何かをさせられたりする生活に変わるとしたら、ぼくは絶対に耐えられないと思います。虐待されて亡くなった子達は、こんな環境をずっと経験させられて、最後には殺されたり自殺してしまうという最悪な事をさせられています。子どもからしたら、一番大好きな信頼できるはずの存在であるお父さんやお母さんから虐待され、心にも体にも大きな大きな傷を負い、死んでいくという死んでも死にきれないような仕打ちをされてしまい、本当にかわいそうだと思います。児童虐待は自分の子どもに対する親の八つ当たりやわがままだとぼくは思います。「育児や生活に疲れたから」「子どもが言うことを聞かないから」などの親の身勝手な言い訳もよく耳にします。しかし、自分達が望んで子どもを授かったのだから、どんなことがあっても大切に、愛情をかけて育てるのが親の義務だと思います。子どもが成人するまでは、し

っかりと育てるのが親の責任でもあります。虐待を受けた子どもはすごく辛い思いをし、幼いころに受けた事は記憶として一生その子の心に傷として残ってしまうものだと思います。そして、その記憶が大人になってから出てきてしまい、その子も同じように虐待を子どもにしてしまったり、犯罪を犯してしまったり、うつ病などの精神病になってしまったりという話をお母さんに聞いたことがあります。虐待というのは、連鎖してしまったり、逆にその経験を生かして良い親になる時もあるそうです。なので、この増え続ける虐待という行為をどこかで止めないと、これからの未来は大変なものになってしまおうと思います。もともと子どもを授かることの重みと責任を知り、きちんと育てる決心を一人の大人達がしてくれたらいいと思います。まだ子どもであるぼくは何もできませんが、将来は何か人の役に立てる、人と関わりが持てる仕事をしたいと思っています。ぼくのお母さんは助産師の資格を持っていて、時々、命の授業というものを小学校へしに行っています。そこでは、命の尊さや大切さをみんなに説明しているそうです。そこで、もし虐待されている子がいてその話を聞くと、自分の命を大切に思えたりするのかなと思います。出産にも立ち会うので、そこでもそのような話をする時があるそうです。そのような話を聞いて、一人でも虐待をする人が減ればいいのになと思います。ぼくも同じ職業は無理ですが、同じようなことを伝えられるようになったらいいなと思っています。小さなことからコツコツとまわりに広げていける活動ができるような大人になりたいです。そして、まずはぼく自身が大人になり、結婚して、子どもを授かったとしても、お父さんやお母さんがぼくを大切に愛情いっぱい育ててくれたように、ぼくも大切に子どもを育てた

いと思います。

子どもは親のストレス発散の道具ではありません。子どもにも大人と同じように生きる権利があります。子どもは体が小さいですが、どんな人間も命の重さ、大切さは同じです。その大切な命を簡単に消してしまわないよう、大切に育てるよう心から願っています。お母さんが命の授業で最後に渡している手紙には「生まれてきてくれてありがとう。自分を大切に、命を大切にね。生きていくだけで百点満点！」と書いてあります。本当にその通りだと思います。自分を大切に、命を大切にしていけることを心から願っています。



標語

【小学生の部】

学年

・ 言ってみよう あかんはあかん はつきりと

五年生

・ あいさつは 友だちふやす 愛言葉

五年生

・ ありのまま 今の自分で 大じょうぶ

五年生

・ 一人じゃないよ 私はあなたのそばにいる

五年生

・ 「やめようよ」 この一言が いじめをなくす

五年生

・ のばそうよ その手がだれか 救うから

六年生

・ 誰だって 誰かの大事な 宝物

六年生

・ ありのまま 今の自分で 大じょうぶ

六年生

【中学生の部】

学年

・「いじめダメ」書いて終わるな 行動だ 一年生

・私にとって 少しの勇氣 あの子にとって 一年生

・あなたも大事。私も大事。お互いにただ一人の「私」なのだから。 一年生

・なくしたい 言ってるだけじゃ 消えない差別 三年生

・いい球を おくろう言葉の キャッチボール 三年生

【高校生・高等専門学校生・一般の部】

・勇氣出し かけた言葉が 手助けに 高校二年生

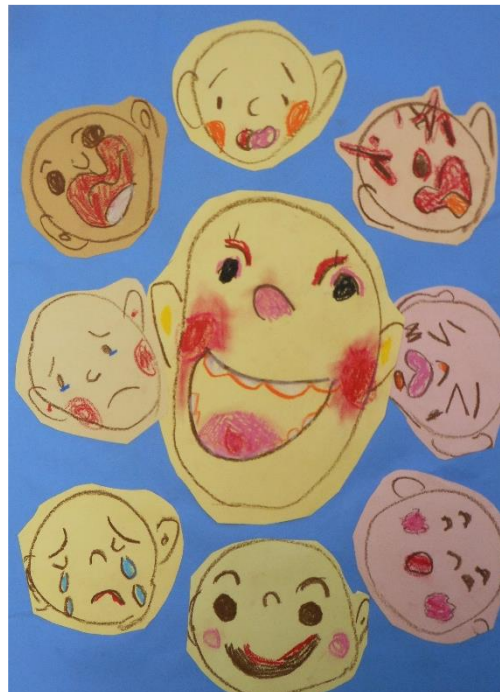
・叫んでる 心の声に 目を向けて 高校二年生

・見逃すな いじめの種は そこにある 高校二年生

# 《小学生の部》



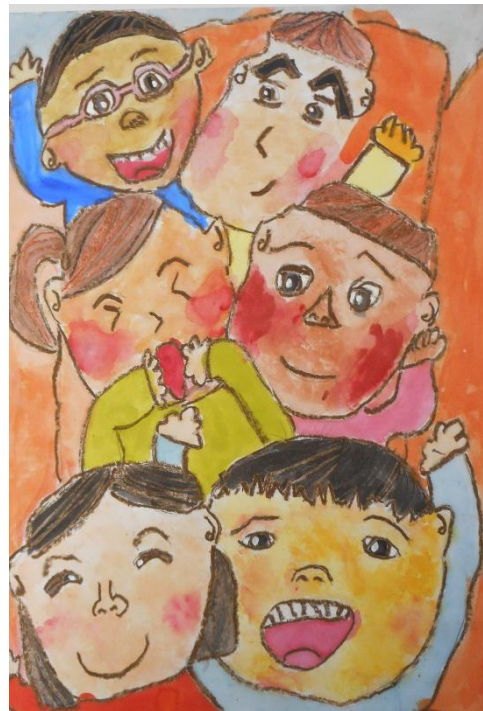
2年生



1年生



2年生



2年生





2年生



3年生



4年生



4年生



4年生



4年生



5年生



5年生





6年生



6年生

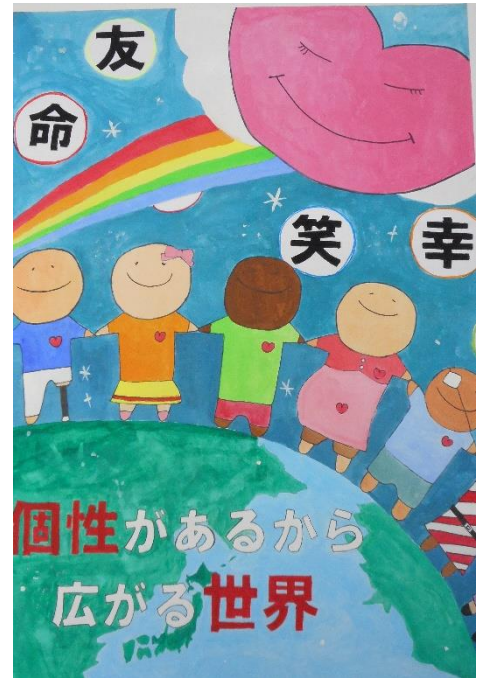


6年生

# 《中学生の部》



2年生



3年生



3年生



3年生



3年生

# 人権尊重都市宣言

すべての人々の人権が尊重される自由で平等な社会の実現は全世界共通の願いである。

しかしながら、現実の社会生活においては人権が侵害される事象が依然として存在しており、これを解消することは私たち全市民に課せられた責務である。

よって、当市議会は、あらゆる差別を撤廃し、すべての人々の人権が保障される明るく住みよい地域社会を実現するため、ここに人権尊重都市宣言を決議する。

平成3年3月27日

名張市





—人権作品集—

2019年1月発行

名 張 市

名張市教育委員会

この冊子は再生紙を使用しています。